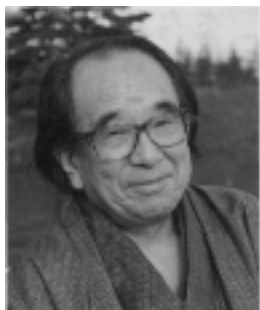


北海道元氣曲の第二弾 牧野昭一さんの もっと・北海道のCD発売



牧野昭一さん

デュエットのヒット曲「赤いグラス」の作曲者で、目下、執筆や講演活動などでも多忙な中標津町在住の作曲家、牧野昭一さん（七五）が作詞・作曲した「もっと・北海道」のCDが近く発売される。景気の低迷で落ち込んでいる道民に元気を与えようと、平成十年三月に制作した「道民応援歌」に次ぐ、「北海道元氣曲」の第二弾。お年寄りから子どもたちまでの誰もが、聞いただけで体を動かしたくなるような16ビートの軽快な曲で、同町内でカラオケ教室を開いている阿部俊勝さん（五七）と札幌市在住の山内まりさんのデュエット。「輪になって唄い、踊り

合うことで、わだかまりや憂さを吹き飛ばせば…」という牧野さんの願いがこもっている。

北海道新聞が主唱する、北海道に活力を与えるキャンペーン「もっと・北海道」のロゴタイプを見て制作を思い立った。牧野さんが中心になって毎年開いている『大地のど自慢』の開催準備の打ち合わせで道新本社の社長室を訪れた際のことだ。「壁に貼ってあるのを見てね。いいロゴだと思っただよ。北海道のためになるならなんでもやるよと思っていたしね。ひとつ、このロゴにあやかっただよ。景気のいい歌を作ってみる気になった」というわけだ。

男女二人のデュエットで一番と二番で構成。詞に、蝦夷時代に開拓の鍬を振るった先人の労苦に感謝の気持ちを感じているのも牧野さんらしいところで、「今の若い人たちは、蝦夷が北海道の前身であることを知らない。この歌を通して、

じて、そうした歴史的背景にも目を向けてもらえれば」とにんまり。「誰にもすぐに覚えられるし、自然と体が動くような軽快なリズムだから踊りにも適している」と自ら合格点をつける自信作だが、作詞・作曲と歌い手が中標津でCDのジャケット印刷も地元（兩宮印刷）であることも自慢のひとつ。

もっと・北海道

「札幌のCD吹き込みを除いてはすべて地元。もっと・北海道の輪を、中標津発で広めたい」と気炎を上げている。CDの価格は千五百円。発売は九月中旬の予定。問い合わせは中標津町字当幌の牧野さん宅（電話番号01537・33825番）にするといひ。

作詞・作曲 牧野 昭一

沖の鷗に 汐どき聞けば
あたしや立つ鳥 波に聞け
チヨイ

（ヤサエンエレ ヤーサーノ
ドッコイショ）

だからさ（ハッ） だからさ
（ハイ）

もっと もオっと北海道

（ホツカイドウ）

みんな元気に働いて （ハッ）

仲良く暮らすべや（ソラモツ

トモ モットモタア）

（ソラモットモ モットモサア）

（ハッ）
いい家庭つくくるからなア

（ホツカイドウ）

俺はいっしょけんめ 稼いで

（ハッ）

（ソラモットモ モットモサア）